特定非営利活動法人山村塾

2021
年次報告書
Annual Report

こめづくり もりづくり ひとづくり
山村塾

1 活動コース（稲作コース・山林コース）と里山ミニワーク

山村塾の活動コースでは、農家と一緒に農作業や山仕事に汗を流したり、山村での交流や体験を楽しみながら、棚田や森林を守る活動を行っています。

2021年度も引き続き、コロナ禍の影響を受けた年となりました。参加希望が多い行事を2日間に分けて行うなど、定員・時間を工夫して活動を実施しましたが、会員数は２年続けての減少となりました。新しい方々の参加が少なくなっていることが影響していると考えられます。今後は、感染症対策に留意しつつも、できるだけ定員数を増やして開催することを目指します。

また新たな取り組みとして、稲作・山林コース**受入農家が互いに行事の受付を担当**する相互派遣を試行し、受付の効率化や、農家との交流、農産物販売の促進を図りました。会員と農家とが一体となって活動する雰囲気を大事にしたいと考えています。

【活動コース行事（稲作・山林・全体行事）】
活動場所：四季菜館、稲作コースの棚田、
えがおの森、ケヤキ林、炭窯、
上鹿子尾地区内の森林等
回数　　：22回（22日間）
参加者　：**延べ481名**（2020年度307名）
スタッフ：延べ157名

【里山ミニワーク】
活動場所：四季菜館、炭窯
回数　　：7回（9日間）
参加者　：**延べ50名**（2020年度14名）
スタッフ：延べ43名

総勢76名での左義長（1月）

活動コース会員数

活動コース	2019	2020	2021
稲作山林	8	6	6（0）
稲作	36	24	23（0）
稲作30kg	-	10	13（3）
山林	18	13	11（0）
古里	12	11	9（0）
計	**74**	**64**	**62（3）**

※（ ）内は新規会員数

参加する方との触れ合い、お昼休憩でいただく地元の食材を使用した食事、夏の作業後の川遊びなど、山村塾で行うすべてが楽しく濃密な時間だと感じました。田んぼに素足で入った時の言葉にできない、気持ちがいいのか悪いのか一瞬戸惑う瞬間など、肌で体感できることは刺激になりました。とにかく五感がフル活用でした。

合鴨農法での米作りで、田んぼの合鴨を捕まえる作業の際、はじめは大きな生き物に躊躇していた息子が、まわりの子供たちが捕まえる姿を見て自ら勇気を出して捕まえた瞬間感激しました。恐怖心を１度乗り越えた後に、何度も捕まえようとする自信を得た姿を見て、ひとつのきっかけでこんなにも大きく成長するのだと感じました。親類だけではない、山村塾という繋がりのある大人や子どもと共に過ごすことで自ら考えて行動出来るようになることは素晴らしいと思います。

稲作コース会員　出塩 亜希子さん

家族での参加が多い「しいたけ菌打ち」を2回に分けて開催しました。（2月）

2 研修事業

令和３年度自伐林家育成研修

主催：福岡県

2021年度は、男性9名、女性1名の計10名の方が参加し、全13回の研修を実施しました。今回は、小規模な山林を所有していたり、実家に山林があって、それらを自分自身で管理したいという方々が多かったように思います。

自伐林家育成研修は第4期となり、**これまでに37名**の方が研修プログラムに参加されました。第1期生、2期生の中には講師・講師補佐として研修をサポートしてくれる方々も育ってきており、継続して事業を行ってきたことの成果を感じています。

開催場所：八女市、久留米市、広川町
受講者数：4期生10名、
　　過去参加者のフォロー研修9名
実施日程・回数：8月～3月 全13回、
　　修了者向け2回

福岡県森林づくり活動安全講習会

主催：福岡県

2011年度から一部を山村塾が担当し、2014年からは講習会全体を担当しています。2021年度も昨年同様に、森林ボランティアの基礎知識、手道具での森林整備、動力（草刈機・チェーンソー）の安全な取り扱いに関する講座を全10回開催しました。近年は**活動未経験者の割合が増**えており、団体に所属しないで新たに森林整備をやってみたい、という方も多いようです。各地で活動する森林ボランティア団体とそういった方々とが上手くつながって、安全な森林整備が広がっていくことを期待します。

開催場所：八女市、久留米市、福岡市、北九州市、飯塚市
受講者数：159名
実施日程・回数：5月～1月　全11回（延べ12日間）

3 里山での福祉～「社会福祉法人たからばこ」との森林整備

４～５年前から、たからばこの月2回の活動に参加しています。最初は何かと戸惑うこともありましたが、参加者ひとりひとりの個性や得意な作業も少しずつ解ってきて、各々に見合う作業の振り当て・グループ分けをされる山村塾スタッフ皆さんの経験豊かさも知ることができました。

１時間ほどの作業ですが、林内ならではの爽やかな空気を思い切り吸いながら汗をかき、普段使うことのない機能を最大限に呼び起こす貴重な時間、昼食を共にしながら、様々な個性と向き合う己の心が問われる時間でもあります。

帰路いつも感じること、癒されているのは私の方では？

森林セラピーですね！！

たからばこボランティア　**宮野 和子さん**

障がい者施設「社会福祉法人たからばこ」との山での活動は、感染症の影響や悪天候によって、月2回の活動計画を年間10回に減らしての実施となりました。

この活動は、森林資源を薪として施設に持ち帰り、ウッドボイラーの燃料（給湯と暖房）とする脱化石燃料を進める取り組みであると同時に、施設内で活動することが多い利用者さんに対して**森林療法の効果を期待**しています。

2022年2月、上原巌先生（東京農業大学教授）と日本森林保健学会、全国森林レクリエーション協会の皆さんによる森林療法に関する講義＆ワークショップを開催し、現在行っている「里山での福祉」活動を振り返る機会を得ました。普段の山村塾イベントは、森の中で汗を流す「動」の時間が多いのですが、落ち葉の中に埋もれてみたり、森の中での自己カウンセリングを行うなど、森の中で「静」かに過ごす時間を得ました。普段の山村塾の活動にも取り入れると良いだろうなと感じました。

参加人数：延べ81人
実施回数：10回
活動内容：森林整備、椎茸の菌打ち

4 合宿・日帰り・週末ボランティア

助成：積水ハウスマッチングプログラム

1.日帰りボランティア（4月～3月：27回）
　参加者　：延べ78名
2.週末ワークキャンプ（2021/7/17～18、3/20 ： 2回）
　参加者：延べ12名
3.里山80日ボランティア2021夏（2021/5/12～7/18 ： 68日間）
　参加者：1名
4.奥八女芸農ワークキャンプ2021（2021/8/25～9/30 ： 37日間）
　参加者：1名

日頃、親子で活動コースにお世話になっていますが、私自身は日帰りボランティアに継続参加中です。活動内容は、無農薬の米づくり、畑仕事、草刈り、ラッキョウ仕事など。電気柵を拡張してヤギ牧場の面積を広げ、太陽光パネルを設置し、草刈りスタッフのヤギがのびのびと活動できる環境も作りました。私も草刈りスタッフの一員として安全にボランティアが行えるよう草刈り機講習会を受講しました。時には農業や林業、大工さん等プロの技術指導を受けながらの作業もあり、まるでDASH村のようです。ピザ窯も沢山のボランティアの皆さんのご協力で再築されました！

笠原の豊かな自然を満喫し、毎回楽しみに参加しています。皆さんも是非一緒に活動されませんか？クターデンの手作りのお弁当もおいしいですよ。

日帰りボランティア参加者　柿原 孝子さん

NICEと２回の国際ワークキャンプ（合宿ボランティア）を企画しましたが、2021年も海外からの参加はかなわず、国内参加もそれぞれ１名にとどまりました。しかし、**日帰りボランティアと連携**した取り組みを行うことで、棚田での米づくりなどの重要な活動メニューを予定通りに行うことができました。

日帰りボランティアは計27回実施し、延べ78名の方に参加いただきました。棚田での米づくり、らっきょう仕事、草刈り作業、そして年度末には、ピザ窯や釜製茶カマドの設置などに取り組みました。

▶ワークキャンプメンバーの活動ブログ
https://egaonomori.exblog.jp/

5 笠原棚田米プロジェクト

美しい棚田を次世代に引き継ぐことを目指して取り組む笠原棚田米プロジェクトは9年目を迎え、新たな取り組みとして、黒木町のカフェ「GOOD SEE YOU!」さんとコラボイベントを実施しました。1/29、30の2日間、大人気のチキンカレーのご飯に笠原棚田米を利用して、店内に棚田の写真を飾ったり、チラシやポストカードを配布したりと、これまでご縁のなかった方々に笠原棚田米のことを知ってもらう良い機会となりました。

また、サポーターへのサービス向上の取り組みとして、月2回の**メールニュース配信**をスタートし、これまで電話やメールに頼っていた申込・登録変更手続きや農産物の購入をインターネット上で出来るようにしました。

GOOD SEE YOU!さんとの
コラボカレー

GOOD SEE YOU!
Instagram：goodseeyou_yame

サポーター数：84名（個人80、企業4）
参加農家：8軒
取扱俵数：103.95俵（2020年度より1.45俵増）
守られている棚田面積：17,325㎡　（2020年度より242㎡増）
（103.95俵→173.25ａ 収穫6俵／10ａとして）
※企業・団体として、新日本製薬株式会社、うなぎの大東、羊の和。、博多駅東１丁目２区町内会にご協力いただいています。

私と奥八女・黒木町とのつながりは、約40年前からです。当時、柳川の川下りでは掘割の水質や水量が問題となっており、川の上流と関連があるのではと、漁師さんたちと奥八女の山に木を植える活動を始めました。

その後、”矢部川はひとつ”との想いで「矢部川をつなぐ会」を結成し、矢部川流域で活動する団体でネットワークを組んで活動しています。山村塾もその団体のひとつです。

当店の、うなぎのせいろ蒸しに使うお米は、笠原をはじめとする奥八女（黒木・矢部・星野・上陽）の棚田米です。消費地として、矢部川上流の棚田を応援したい気持ちからですが、大変好評をいただいています。

一方で、農家の高齢化が深刻だと感じています。棚田は一度荒れると、元に戻すのに労力を要します。いつまでも耕作を続けていけるような取り組みが急務です。技術を持つ人がいるうちに、山村塾が中心となって、ぜひ若い人を巻き込んで、仲間を募り、棚田での米づくりを次の世代に繋いでほしいと期待しています。

これまで、多様性のある山になるようにとの思いで木を植えてきました。山の環境を守ること、また農薬を使わない米づくりを応援することで、子どもたちが思いっきり田んぼや山で遊べるようにと、この風景が多くの子供たちの原風景となってほしいと願っています。

笠原棚田米の取り組みが始まり10年になろうとしています。これからも続けんね、継続こそ力よ、との想いです。

棚田米サポーター　うなぎの大東　工藤 徹さん

6 その他の出来事

①奥八女芸農プロジェクト（2015年度～）

九州大学大学院芸術工学研究院社会包摂デザイン・イニシアティブとの協働事業。奥八女芸農ワークキャンプ、八女茶山おどりプロジェクトを継続したほか、新たに半農半アート研究会がスタートしました。

②火のある暮らし（2021・2022年度）

地元自治会の夢かさはら自治運営協議会が八女市の補助を受けて、えがおの森に東屋・ピザ窯・釜製茶カマド・薪小屋の設置を行いました。お米の消費も拡大したいけどピザもおいしい。

新理事の紹介

2018・2019年Panasonic NPOサポートファンドによって取り組んだ組織基盤強化の取り組みのひとつに「理事会の活性化」がありました。そのなかでNPOや小規模事業者などの経営やマネジメント経験がある人の参画を求める意見がでて、今回の理事改選にあたって蒲原さんに声をかけました。環境教育の専門家であるとともに、福岡県自伐林家育成研修の修了生、北九州市林業研究グループのメンバーでもあるなど、農林業を営む人たちとつながっていることも理由の一つです。

北九州で森のようちえんとオルタナティブスクールを主催しています。今年は五人目となる我が子が生まれ、家族7人賑やかに暮らしています。彼らの未来を守る為に私たちができるだけのことをやっていきたいと思っています。

里山は自然と里をつなぐ場であり重要性は誰もが認めるところです。山村塾は里と街を繋ぐ重要な場だと思います。たくさんの人を里へ、自然へと誘うお手伝いができればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

※NPO法人森の育ち場　http://www.sodachiba.jp/

理事（2021年度～）**蒲原 聖**

事務局スタッフの声【パート編】

普段のイベントには常勤スタッフが出てくることが多いのですが、ボランティア事業や研修事業、イベント事前事後の諸々には裏方の皆さんの力が欠かせません。そんな縁の下の力持ちの二人からのコメントを紹介します。

私が山村塾の仕事をするようになり、10年がたちました。初めは災害ボランティアのお手伝いでした。その後、合宿ボランティア、らっきょう、田んぼ、ヤギ、茶山おどりなどなど…、いろんな出会いがありました。

先日も、16歳と17歳の高校生がボランティアに来てくれ、暑い中、田んぼの草取り、ヤギの世話など手伝ってくれました。16歳の私といえば、かばんの薄さとスカートの長さばかり考えていたような気がするのですが…

そんな若者（だけじゃない）に出会え、ヨシヨシ、日本の未来は捨てたもんじゃないぞ！！と、希望をもらいました。いろんな経験が出来る山村塾ありがとう！

金澤 真里

山村塾との出会いは、10年前笠原が豪雨被害を受けた時でした。笠原は祖母の生まれ故郷でもあり、何かできないかと思っていた時に山村塾が災害ボランティアを募集していることを知り、参加しました。

そこから山村塾の活動に興味を持ち、合宿ボランティアに日帰り参加したり、稲作コースの鴨さばきに参加しました。里山に集う方々との交流は楽しかったです。

今は山村塾で週一回、らっきょう畑や田んぼの草取りなどの農作業や、事務仕事等をしています。日々の草取り仕事があって夏の綺麗な田んぼの風景がある事を知りました。いろいろな所から訪れるボランティアさんとの交流も楽しいです。7月には子ヤギも生まれ癒されています。

今後も微力ではありますが、山村塾を縁の下で支えるお仕事ができたらと思います。

松尾 綾

山村塾 中期計画策定 ワーキンググループ

持続的な組織のあり方と事業の方向性を明確にすることを目指し、2022年度から2025年度の4か年における中期計画を策定しました。策定に当たっては、**理事3名と事務局4名によるワーキンググループ（WG）** を立ち上げ、認定NPO法人アカツキのサポートを得ながら取り組みました。中期計画では、3つのテーマと2025年度の最終目標をそれぞれに設定し、それらに向けての4年間の目標や施策を取りまとめました。

中期計画（2022～2025年）３つのテーマと最終目標（GOAL）

テーマ	【A】 子供たちや若い世代の参加を増やす	【B】 持続的な農山村について、考え・学び・実践する場をつくる	【C】 笠原棚田米プロジェクトを通じて環境保全型農業の取り組みを進める
最終目標 GOAL	行事の運営体制が充実する	里山生活の知識や技術を身につけることができる場が整う	棚田米サポーターが増える
	行事に新しい家族や初心者が参加し、活性化している	薪ストーブやウッドボイラー等で薪を使う人が増える	環境保全型農業を実践する農家が増える
	ケヤキ林に子どもたちや若い世代が訪れている	コミュニティや農地の継承を目指したセミナーが自治会などと連携して実施されている	笠原棚田米プロジェクトの運営体制が充実する

今回、初めて中期目標をつくりましたが、これまで何となく共有されていた事業の目的や目標について、理事と事務局と、それぞれの立場で意見を交わし、優先順位やスケジュール感をすり合わせることができました。特に事業の表面に出てこない内面について、「なぜこの事業が大切なのか？」「どこに重点を置いて進めるべきか？」を時間をかけて話し合えたことが組織内部の強化につながったと感じています。

中期計画を進めるにあたっては、定期的に進捗をチェックし、軌道修正をしながら、山村塾らしい事業が持続性をもって取り組まれることを目指します。皆様のご協力ご支援どうぞよろしくお願いします。

ご寄附について

90名の方々から**計1,910,961円**のご寄附を頂戴しました。

山村塾の取り組みを応援いただき、誠にありがとうございました。

寄附金内訳

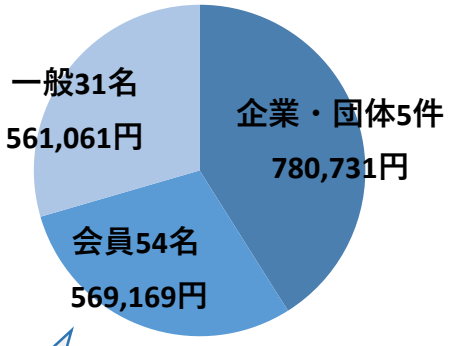
一般寄付金770,731円、ヤマヤマ基金1,129,169円、笠原棚田牧場寄付金11,061円

【ヤマヤマ基金とは】

任意団体として活動していた2003年に、スタッフ賃金確保を目指してスタートしました。これを機に団体としてスタッフ人件費を予算化し、現在の事務局の雇用につながっています。山村塾の活動は皆様からのご支援に支えられています。ご協力のほどよろしくお願い致します。

※グラフ中の会員とは、NPO会員・活動コース会員・笠原棚田米サポーターです。
※賛助会費は受取会費に計上し、この金額には含まれていません。
※認定NPOの要件となるPST判定の寄付者数は113名（賛助会員を含む3,000円以上の寄付者）でした。

寄附金内訳（寄附者属性）



▶企業・団体からのご寄附について

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、ＫＤＤＩ株式会社九州総支社、古本募金きしゃぽん、特定非営利活動法人森づくりフォーラム、油機エンジニアリング株式会社

※詳しくはホームページにて報告しています。 https://sansonjuku.com/news/archives/category/news

会計報告

2021年度 財務諸表

活動計算書（2021年4月1日～2022年3月31日）

科目			金額(円)	
経常収益	受取会費		402,000	
	受取寄附金		1,910,961	
	受取助成金・補助金		1,465,488	
	事業収益	自主事業収益	10,004,986	
		受託事業収益	13,232,372	
	その他収益		32,205	
	経常収益計		27,048,012	
経常費用	事業費	人件費	8,779,292	
		商品仕入高	3,847,711	笠原棚田米仕入れ代金等
		諸謝金	2,361,000	研修事業講師謝金等
		業務委託費	2,364,996	活動コース農産物、食事代等
		食材料費	862,084	合宿ボランティア食事材料代等
		消耗品費	2,185,415	笠原棚田米資材、研修事業資材等
		その他経費	5,679,277	保険料、えがおの森賃借料、宅急便代等
	管理費	人件費	1,761,050	
		その他経費	1,479,859	
	経常費用計		29,320,684	
経常外収益			0	
経常外費用			8,760	
法人税			71,000	
	当期正味財産増減額		-2,352,432	
	前期正味財産増減額		1,637,086	
	次期繰越正味財産増減額		-715,346	

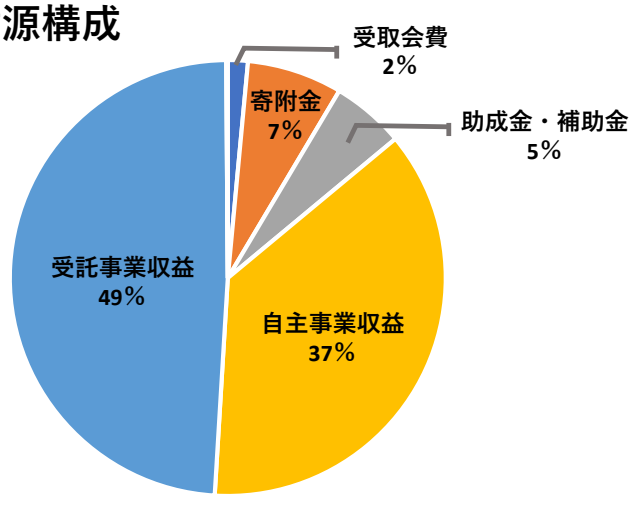
▶自主事業収益 内訳

活動コース年会費収益 19%
棚田米サポーター会費収益 42%
参加費収益 8%
農産物販売収益 17%
利用料収益 7%
その他 7%

貸借対照表（2022年3月31日現在）

資産の部			負債の部		
科目		金額(円)	科目		金額(円)
流動資産	現金	264,972	流動負債	未払金等	8,369,421
	預金	6,100,178		流動負債計	8,369,421
	棚卸資産	3,280,260	固定負債	長期借入金	4,076,000
	未収入金等	793,365		固定負債計	4,076,000
	流動資産計	10,438,775		負債の部 計	12,445,421
固定資産	建物	1,216,382	**正味財産の部**		
	車両運搬具	1	正味財産	前期繰越正味財産	1,637,086
	機械装置	74,917		当期正味財産増減額	-2,352,432
	固定資産計	1,291,300		正味財産の部 計	-715,346
資産の部 合計		11,730,075	**負債・正味財産の部 合計**		11,730,075

財源構成



2021年度総括

コロナ禍2年目として徐々に活動を再開し、参加者数は2020年度からは増加しましたが、会員数は2年続けて減少しました。また、農産物販売（棚田米）も目標を下回るなどして全体の収入が大きく減少しています。加えて、合宿ボランティア事業で取り組んできた農林地管理を有償スタッフが担ったり、中期計画策定や感染対策等に人手がかかったことから、経費の抑制ができずに**大きな赤字決算**となりました。一方、県の研修事業などの受託事業を安定的に実施できていることが、収入の下支えとなっています。

ご支援のお願い

山村塾の活動は、皆様からのご寄附で支えられています。
山村の暮らしに学び、山村の環境を守る取り組みに
ご協力をお願いします。

山村塾は、運営組織や経理が適正で、事業活動に公益性が保たれていることが認められ、
2020年3月19日付で、福岡県より「認定NPO法人」として認定されました。
認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すために国が設けた税制優遇制度です。
山村塾へのご寄附は、確定申告することで寄附金控除の対象となります。

<参考>内閣府NPOホームページ（認定制度について）
https://www.npo-homepage.go.jp/about/npo-kisochishiki/ninteiseido

▶ご寄付の方法：払込取扱票をご利用、または下記口座へお振込みでご寄附をお願いします。

郵便振込口座から	【加入者名】特定非営利活動法人山村塾 【口座番号】01790-3-169398
銀行から	【金融機関】ゆうちょ銀行　【店名】一七九（店番 179） 【口座番号】当座0169398

※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレスを事務局までお知らせください。

こめづくり もりづくり ひとづくり
山村塾

山村塾は1994年に2軒の農林家と会員有志によって、棚田と山林を守る取り組みをスタートしました。都市と農山村の住民が一緒になり、環境にやさしい米づくりや豊かな生態系の森づくりを通じて、山村の環境を守る活動と、その活動を支える交流や人づくりを行っています。

認定NPO法人山村塾
〒834-1222福岡県八女市黒木町笠原9836-1
TEL・FAX：0943-42-4300　E-mail：info@sansonjuku.com
https://sansonjuku.com
@sansonjuku
@sansonjuku_official
山村塾 YouTube　検索
山村塾
ホームページ